

2021年9月

からし種

カトリック片瀬教会



敬老の日を迎えて

ブランチフィールド神父



季節が代わり、9月を迎えます。今日（8月23日）、トンボが沢山飛んでいました。そして蝉が小声で鳴いています。やがて秋を知らせる虫の声に変わり季節の移ろいを感じます。高気圧前線によって、澄み渡った青空が天高く広がる秋が私は大好きです。

さて、9月になると敬老の日が来ます。本来ならば直前の主日にお祝いのミサが行われ、ご年配の皆さんが病者の塗油の秘跡を授かっていました。ミサ後にはお祝いの席も設けられておりました。

しかし昨年は新型コロナウイルス感染拡大の為に集まることができませんでした。今年も祝賀会はあいにくできそうもありません。

次回の委員会で、具体的にどのようにするか話し合いを持つ予定です。まずは、敬老の日に当たり、ご年配の皆さんのために祈ります。地区別ミサが続いており、一堂に会することはできませんが、その都度ミサに与った時に、希望者の方々のために、個々に病者の塗油の秘跡が受けられます。

ご年配の方々の健康をお祈りします。このような時期だからこそ、何よりも身体を大切に致しましょう。

「聖書と典礼を読む会」は、8月はお休みでしたが、9月8日（水）から再開致します。新しく入りたい方は是非どうぞ。

聖母の被昇天

8月15日(日)聖母の被昇天のミサは、地区別ではなく、10時と17時の2回に分けて行われました。

あいにく、豪雨の予報により朝から夕方まで本降りの雨でしたが、17時のミサの開始直前には突然小降りになり、各地域から久々に顔を合わせた方々やブランチ神父様の出身である鍛冶ヶ谷教会からの参列者も交えて片瀬教会が温かい雰囲気になりました。



ミサ後は神父様ご提案の花火大会を、当初の計画より規模を縮小して軒下で手持ち花火のみで実施。新型コロナウイルス感染急拡大で心配の声もあった中、聖母マリア様のお取次ぎを祈りながら感染対策に細心の注意を払って準備を行った教会リーダーの方々の苦勞が実り、ささやかながら気持ち盛り上がり、子どもたちを始め皆が笑顔になった瞬間となりました。



2021年8月度教会委員会報告

開催日時：2021年8月1日(日)午前11時15分～12時30分

参加者：ブランチ神父 委員長 副委員長 典礼 冠婚葬祭 宣教司牧 福祉 広報
財務 総務 教会学校 中高大青会 マドンナ会 ヨセフ会・営繕
キリスト教連絡会 一粒会 片瀬修道院)

□ ランチ神父挨拶

(8月15日聖母の被昇天2回ミサの件と葬式の連絡の件を念頭に)

- ・私達に与えられている役割はコロナのために麻痺している共同体が直るよう祈ることで。
- ・お互いに支えていきたいと思います。地区内の連絡のについてできるだけのことをしたいです。

□ 主日のミサ地区別は現在のコロナ感染状況から継続とする。

□ 報告および連絡事項

1. ガレージ脇の木の根処理費用は、¥85,450。
2. 下水道修理完了。費用は¥99,000。但し、地盤沈下により下水流が本管に行かない様になって いるかも知れず、追加工事が必要になる可能性あり。
3. これから司祭館の雨樋修理が必要で、見積中。
4. 教会消防訓練は、9月に予定。各地区毎ミサ後に実施する。
5. 卓球台入手し、組み立て完了。

□ 検討・討議事項

1. 教会連絡網の件

1) 暑中見舞いハガキ 561 件出し、100 件ほど宛先不明で戻ってきた。これらは、戸籍係と名簿係で再精査している。

2) 連絡網構築について

①第1ステップとして、現在のマドンナ会、ヨセフ会の連絡網を合体させた形をベースに整備する。具体的作業は、神父様、委員長、副委員長、戸籍係、名簿係、ヨセフ会長で進める。

②第2ステップとして、神父様から温かいつながりができる様、地区の見直しを行いたい。現在の地区分けは広すぎる、もっと細かにして知り合っているようにする。また「その他」という分けは無くする。

③ステップ1は伝達手段を電話とするが、メール、LINE 等他の手段についても検討する。

2. 長谷川路可画展示、信徒会館展示見直し

①長谷川路可画の額縁は現在のアルミフレームが痛んでいるので、木製のものに交換する。

②本件は、神父様、藤江氏、藤本氏の3人で行っているが、藤江氏を主として作業していく。

③作業の必要に応じて信徒に協力を呼び掛ける。

3. 長谷川路可画（掛軸）修復

①司教様から話しがあった甲府教会の Sr. 志村に相談する。藤本氏から連絡をする。

②本件は藤本氏が主として作業していく。

4. ホームページには教会行事予定を載せる様にする。行事予定の情報は各部門から相澤氏へ連絡する様にする。

次回委員会開催 9月5日

日本の教会の歴史 (四十八)

プロテスタント教会の渡来と、活発な教育

江戸時代のはじめから、イギリスやオランダのプロテスタントの来日はあったわけですが、彼らは幕府との軋轢を避けるため、日本人への布教にはこだわりませんでした。しかし幕末に初代アメリカ領事となったウィリアム・ハリスは、日米修好通商条約の交渉をするにあたって、布教の可能性を追求しました。その条件のひとつは、書物の発行と収入に制限をつけないという一項でした。



1859年に条約が発効すると、アメリカから聖公会や長老教会の宣教師、さらには有名なヘボンやフルベッキなど、のちの日本に大きな影響を与える人物が次々と来日しました。それでもパリ外国宣教会同様、しばらく日本人に対する宣教活動は難航しましたが、1873年に政府方針が転換し布教の自由が保証されると、それまでの努力が実をむすびはじめます。

彼らの宣教活動にはふたつの特色がありました。ひとつは教育事業を始めたことです。のちに立教大学、青山学院、明治学院となる学校が、1874年に産声をあげました。1875年には、留学先のアメリカで神学を学び、宣教師の資格を得て帰国した新島襄が、同志社大学の前身である同志社英学校を創設しました。

もうひとつは、バンドとよばれた熱心な若者の集団の活動でした。バンドはひとつめの教育活動の成果であり、横浜バンド、熊本バンド、神戸バンド、北海道バンドなどが有名です。北海道バンド出身の新渡戸稲造、内村鑑三はとくに有名で、新渡戸稲造はのちに国際連盟の事務次長にも選ばれ、日本の国際交流に貢献しました。内村鑑三は無教会キリスト教を唱えて、反戦を貫く一方、著書がよく読まれて言論人として活躍しました。

バンドの活動の結果、プロテスタントの信者数は増加し、バンド出身者の政界や言論界での活躍は、新しい日本をつくるための進歩的勢力として力を発揮しました。

(結城了悟師による同名の著書をベースに構成)

司牧協議会会長 カテケージス (その2)
「いのちを守る聖ヨセフ」 司教協議会会長 高見大司教

※からし種 2021年7月号の続きです。

2. 神のお望みを実行する人

ヨセフは、婚約中にみごもったマリアのことで大いに戸惑い、自分の家族や親類、友人たちからどんな非難や中傷を受けるか分からない状況の中で、「恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである」という主のことばを受けました。しかしそれに対して何の説明も求めることなく、言われたとおりに実行しました(マタイ 1・20-24)。婚約者の違反を訴えて求刑することは回避したものの、神のお望みは、恐れずマリアを妻として迎えることでした。神はヨセフのやさしさを救いの計画の中で生かすことを望まれたのです。

ベツレヘムでイエスが生まれた後、主のみ使いから、エジプトに逃れるように、そしてその後イスラエルに戻るように言われた時も、それを神の望みとして受け入れ、何の疑いもなくすぐ実行しました(マタイ 2・13-23)。神の全幅の信頼をおいていたからです。神に信頼して実行することこそ重要なのです。

このヨセフの信仰は、アブラハムの信仰に似ています。アブラハムも、故郷を去って神が示す地に行くように言われたとき(創世記 12・1-6)、高齢と不妊の夫婦に子どもが生まれると告げられたとき(15・4-6; 18・10-15)、その一人息子をささげよと命じられたとき(22・1-13)、一言も疑問や不平の言葉を発することなく神のことばどおりに実行しました。

もちろん、マリアと同様、ヨセフもイエスについてのシメオンの話しに驚いたり(ルカ 2・28-33)、神殿での12歳のイエスの言葉の意味がわからなかったりしました(2・50)。それでも、イエスとマリアを中心に生活を開いていきました。

3. 苦境の中でイエスとマリアのいのちを守るヨセフ

すでに懐胎していたマリアを訴えず、妻として受け入れることで、ヨセフはマリアをおなかの子のいのちを守りました。また、ローマ皇帝の命令による住民登録のためナザレからダビデの町ベツレヘムへ旅したとき、(ルカ 2・1-5)、身重のマリアとおなかの子を気遣いながら、危険に満ちた約140kmの道中、身を託して彼らを守りました。特に、イエスの誕生を異常に警戒したヘロデ大王がイエスを殺すために「ベツレヘム周辺とその一帯にいた二歳以下の男の子を、一人残らず殺させた」(マタイ 2・16)とき、ヨセフは大きな不安と恐れを抱いたにちがいません。そのとき、何をなすべきかは主が知らせてくださいましたが、「エジプトに逃げる」ということはまた勇気のいることだったはずです。エジプトに行

く途中には広大な荒れ野が続き、野獣や盗賊の危険が伴いました（申命記 1・19；2・7；詩編 107・4-5 参照）。ヨセフは、この厳しい難民生活の間もお二人を守り通しました。

イエス誕生のときの嬰兒虐殺の出来事（マタイ 2・16-18）が、モーセの誕生物語を思い起させます。モーセが生まれたのは、ヨセフの知らない、時のエジプト王が、イスラエル人の増強を恐れて、生まれる男子をすべて殺害するよう命じたときでした。幼子は母親と王女の機転のおかげで救われ、モーセと名づけられ、後にイスラエルの民をエジプトから救い出すという大役を果たすことになりました（出エジプト記 2・1-10；3・7-10 参照）。

一方、エジプトはかつて兄弟に売られた太祖ヨセフが神の恵みによって苦境を乗り越え、王に次ぐ地位について国民と親兄弟を含む近隣の人々のいのちを救った地です（創世記 37~50）。彼は、イスラエルの民がエジプトに移住し、数百年後に、その隷属状態から解放されて神の民とされ、約束の地に向かう大きな出来事のカギをなす人だったと言えます。

太祖ヨセフもモーセもイエスをあらかじめ表した人物です。幼子イエスのエジプト避難とイスラエル帰還は新しい民の過越を象徴しています。イエスの父ヨセフはいくらかその過越にあずかりました。イエスは、後に自らのいのちを人間に奪われ、否、人類を救うために差し出すこととなります。

「子どもとその母親」を守り続けたヨセフは、真に強い人でした。強い人はつねに弱者を守り支え助けます。「強い物は、強くないものの弱さを担うべき」（ローマ 15・1）ですとパウロも教えています、悪に打ち勝つ者が強いのであって、真に強い人は弱い人を虐げたりいじめたりしません。助けを求めて叫ぶ貧しい人を救い、弱い人、乏しい人を憐れみ、不法に虐げる者から乏しい人の命を解放するのが真の王です（詩編 72・12-14）。人間の目には弱くても、神の恵みによって強い人こそ真に強いのです（二コリント 12・10；13・3-4；エフェソ 6・10 参照）。ヨセフは「身分の低い」マリア（ルカ 1・48）と、罪以外は弱さを身にまといられたイエス（ヘブライ人への手紙 2・14-18；5・2）を守る真に強い人でもありました。

3人の天使



9月29日は「聖ミカエル 聖ガブリエル 聖ラファエル大天使」の祝日です。この3天使は聖書の中に名前が出てきます。これら天使の名前を洗礼名や堅信名としている方も多いと思います。聖ミカエルは神の軍隊を率いる大天使。ダニエル書ではユダヤ人のためにペルシャと戦い、ヨハネ黙示録では悪魔を天から追い落とす。以上から役割は悪魔との戦い、信じる者を特に死に際して敵から守り、神の民の守護を

行うものと考えられてきました。聖ガブリエルは「神の人」または「神は力ある姿を現す」の意。ダニエル書に現れ、救い主が到来するまでの70週について予言をします。ルカ福音書ではザカリアに現れ、妻エリザベトが洗礼者ヨハネを産むと告げ、次いで聖母マリアを訪れ、彼女が聖霊によって身ごもり、救い主イエスを産むと告げて祝福します。聖ラファエルはトビト記で神の栄光をその目で見たいというトビトとふさわしい相手と結婚したいというラゲルの娘サラの望みを同時に聞き入れるため神から遣わされた天使です。新約聖書には登場しないのですが、神の天使とされてきたのは、「神は癒す」という、その象徴的な名と役割によると言われています。ところで天使には上級、中級、下級の3つがあると考えられこの3人の天使は下級天使だそうです。まあ、我々人間に近いということでしょうか。だから現れるのでしょうかね。因みに上級天使にはセラフィムとかケルビムとかがいます。



★★★9月の典礼★★★

3日(金)	聖グレゴリオ1世 教皇教会博士	19日(日)	年間第25主日
5日(日)	年間第23主日	20日(月)	聖アンデレ金と同志殉教者
8日(水)	聖マリアの誕生	21日(火)	聖マタイ使徒福音記者
10日(金)	日本205福者殉教者	23日(木)	聖ピオ(ピエトレルチーナ)司祭
12日(日)	年間第24主日	26日(日)	年間第26主日
13日(月)	聖ヨハネ・クリズストモ 司教教会博士	27日(月)	聖ビンセンチオ・ア・パウロ司祭
14日(火)	十字架称賛	28日(火)	聖トマス西と15殉教者
15日(水)	悲しみの聖母	29日(水)	聖ミカエル 聖ガブリエル 聖ラファエル大天使
16日(木)	聖コルネリオ教皇 聖チブリアノ司教殉教者	30日(木)	聖ヒエロニモ司祭教会博士

9月のミサ

- 9月5日 腰越・七里ガ浜・他
- 12日 片瀬海岸・鶴沼・他
- 19日 片瀬・片瀬山・目白山・他
- 26日 津・津西・西鎌倉・他



お知らせ

◇在バチカン日本国大使館で片瀬教会が紹介されました

6月初旬、神父様に一通の絵葉書が届きました。差出人は在バチカン日本国大使館の職員。大使館の Facebook に片瀬教会と所蔵の長谷川路可画伯の作品を紹介したいとのこと。

早速、写真を送り掲載をお願いしました。6月15日付で片瀬教会聖堂を純和風な教会として、また6月21日付で長谷川路可画伯の作品をチヴィタヴェッキアと絡めて紹介されており、さすがバチカンの大使館だと思います。非常に上手に紹介されているのですが、作成された職員の方は片瀬には来られたことがないようで、帰国の折にはぜひお越しく下さいと申し上げました。

世の中では片瀬教会聖堂や長谷川路可画伯の作品の文化的価値が評価されています。これらは単に財産で終わるのではなく、世間の方々も関心を持ち教会を訪れることで宣教的価値も期待されるのではないのでしょうか。

在バチカン日本大使館 Facebook の URL は以下の通りです。是非ご覧ください。

<https://www.facebook.com/AmbasciataGiapponeSantaSede>

◇水曜日の信徒会館清掃奉仕当番募集！聖堂入り口の用紙にご記入ください。

◇新着図書が入りました。

聖堂入り口の図書コーナーをご覧ください。山口神父様の最新著書もあります。

◇教会の庭の草取りにご協力ください。毎週 土日 17時から行っています。

★ホームページに、片瀬教会の行事を掲載しております。併せてご覧ください。

<https://www.catholicatasechurch.com>

2021年 9月号

発行 カトリック片瀬教会

〒251-0035 藤沢市片瀬海岸2-2-35
TEL. 0466-22-4646 FAX. 0466-25-7909